



武蔵 地区学習会と「ふれあい歩こう会」

武蔵の今年のテーマは「子どもの人権」です。いじめ、虐待、その他以前には考えられなかったような事件が多発し、様々な形の人権侵害が起きています。

糸原区では11月3日に地区じんけん学習会を実施し、ビデオ「子どもと話していますか」を視聴、その後数グループに分かれ自由討議をしました。子育てを終えた年齢層が多く、そういう方々には「孫やひ孫と重ね合わせて見てください」と上映前にお願いして鑑賞しましたが、各グループで盛り上がっていました。

一例をご紹介します

●小学生の孫が私としては許せないいじめをしました。「どうしてそんなことをするの：」と肩をつかんで何度も揺すりしました。すると私は自然に涙が出てきました。子どもながら何かを感じたのでしょうか、その後は良くなったんです…。

おばあちゃんの心情が孫に伝わったんですね。これこそ教育の原点だと思います。

討議後の「ふれあい歩こう会」では、公民館から美郷グラウンドへ約3kmを小学生から80歳までの約120名が元気に歩きました。

ここですばらしい情景が

●高齢の男性が杖代わりに自転車



▲武蔵町糸原区地区じんけん学習会歩いた後の楽しい会食

を押して参加しました。そばにはつかず離れず見守り世話をする中一の孫娘の素直なやさしい姿がありました。心温まる一枚の絵を見る思いがしました。

目的地に着くと、熱い豚汁とおにぎりが待っており、晩秋の寒さの中大好評でした。何日もかけて準備をしてくださった健やか会、婦人会、愛育班、そして企画・協力してくださった皆様、本当にありがとうございます。そして改めて思いました。このような地域ぐるみの温かさや思いやりが人権の根幹の一つになっているのだと。

糸原地区人権教育担当

瀧口和男

国見 生きがいをもって 高齢者が住むまちづくり

国見地区の「じんけん学習会」は、本年度から23区全てを対象に実施するようになった。

昨年度に続き「高齢者問題」をテーマに取り上げ、「尊厳を否定する虐待」に焦点を当てた学習会を開催。5年前から取り入れたワークショップの進め方も広まり、グループリーダーを中心にした積極的な話し合いが多くの会場でも展開された。

参加者の主な発言

●今後ますます独り暮らしが増え、本人を狙った犯罪や虐待が多発すると予想される。

●「年寄り汚い。のろまだ。食べ物味が違う。」など、日常的に耳にする事がある。

●高齢者を受け入れないとする発言は、やがて差別や虐待へと進展するのではなからうか。

●高齢者は一人で閉じこもらず、皆と前向きに付き合えば、未然に防止できるので

●常日頃から、親子間・近隣者との絆を深める手だてを考えておきたい。

●行事や寄り合いの場で、若い人達の考え方や意見を聞くなど前向きな姿勢が望ましいと思う。難しい課題、と受け止められた感もあるが、中身の濃い発言やまた近い将来自分が直面するであろう高齢者問題に、一人ひとりの思いや考え方が行き交った学習会であった。

文責・国見教育事務所 泉谷



▲ギターの弾き語りで高齢者虐待解消の糸口をさぐった学習会